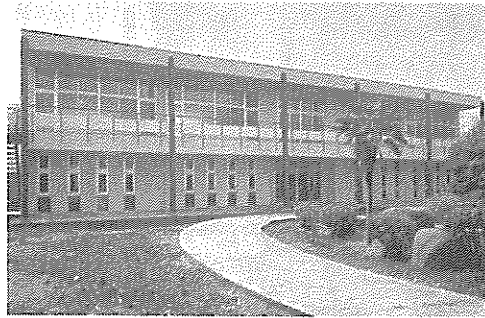


C.B.C. ニュース

中央聖書学校



本年、十五名の新入生を迎えまして、その感激が極めて強いものとして私の胸に迫っております。数年来、入学者が少なく、働きの人が送られるようにと切に祈り続けておりますが、今日、上昇線をたどりつつあることを嬉しく思っております。

あなた方は、主に選ばれ、召されて本校に入学されたのでありますから、その全生涯を賭けて、主に従っていただきたいと思います。ゼロからの出発であり、相当きついであろうことを覚悟した上で、絶対に後には下がられません、福音のためならば私は何でも致しません、とのパウロのごとき熱心をもって入って来ていただきたいのであります。パウロは、「私は主を見た者ではないか。」と言って、自分の使徒権を主張し、主と出会い、主に命令された直接的な経験の故に、その職務を揺るがされることなく全生涯に亘って全う致しました。彼は、他の誰の為でもなくイエス様の為に生き、働きました。イエスに完全



〈入学式メッセージ〉

上昇線

校長 山 喜代馬

に魅了され、一生をイエスに捧げ切り、ただイエスを目標にしていたのであります。皆さんもまた、「私は主を見たのではないか。」というような経験を持つているはずであります。そして、私たちの働きの目的、あるいは生涯の目標もまた、ただイエス・キリストなのでございます。

ひとつのことを心に描いておいてください。それは神の力であります。人間は自分ではどんなに頑張ろうとしても、あるいは途中で挫折するかもしれないものです。いや、そうであつてはいけないうのだけれども、人間の弱さというものを考えますと、何としても神の力に支えられなければ全うすることのできないのが、私たちのこの職務なのでございます。

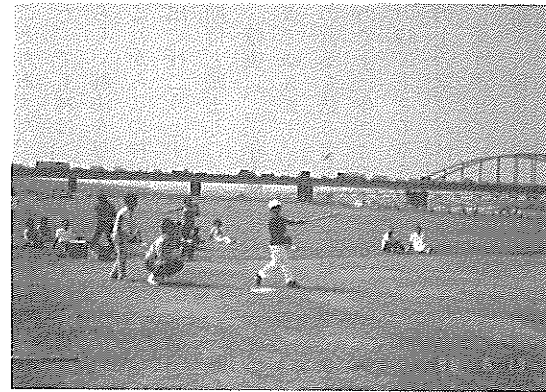
ところで、私の教育方針の一つは、「教えられるよりも、自分で学ばなければならぬ」ということであります。自分で勉強なさい。自分で叩いて門を開きなさい。失っているなら捜しなさい。

い。また自分自身で経験しなさい。その指導役を先生方がしてくださいのてでございます。どこの神学校と比べてみましても、勝るとも劣らない先生方ばかりでございますので、まず、先生方を信頼してください。その信頼が愛へと深まってほしい。愛する者の言葉こそがあなたの方の心の中に本当に真理を植え付けてくれるに違いないのでございます。教師と生徒が信頼し合い、愛し合う中で、真理を求め、自ら掴み取ってゆく。そしてその真理を実行してゆくことに最大の価値と目標・目的がなければなりません。私たちの学校は、神学をただ神学するような学校ではなくて、実際に皆さんが主のご人格に似せられ、真理に自ら生きてゆく者として鍛えあげられることを私は願っております。

神の力を信じ、神の愛のお計らいを信じて、私達人間が到達し得ないことを神が到達させてくださり、驚くべき御業を為して下さることを期待して、学んでいってほしいと願っております。

(第一コリント九章一九―二七節)

はあまり激しい運動をさせないことを注意しました。心は燃えていても肉体は弱いのです。先生方の心はいつもリフレッシュされていて、もしかするとそこいらの中学生よりも若い人ではないかと思われるぐらいです。同じように体も若いと思って、万軍の主の熱心さがこれを成すと、一生懸命になつてしまわれるのです。去年は個人競技が多かったのですが、今年は極力これを少なくして、団体競技を多くしました。種目の人気ベスト1はなんと言っても「棒取り」ですね。審判をしていた私は第三者なのでしょう。あまりの過激さにおもわず目を閉じてしまいました。これまで築きあげてきた、先生方および神学生のイメージが崩れさりそうだったのです。はやくこれをきりあげて、次の種目に移ることが賢明だと判断をしてワンゲームだけで終わったのです。後でこの種目のアンコールをされたのですが、今でも審判であるわたしはあそこで終わったことが正確な判断だと信じて疑わないのですがどうでしょうか。さてベスト2は何でした。こちらはサイドでは去年の例から見ても飛び越えがでず面白くないと思つていたのですが、ところがどっこい。うまいのなんのって、神学生



はいつもへたに飛んでいるのですがこの日は違いましたね。みなが一つ心になつて飛んでいました。青空の下、教師と学生が汗をながして飛んでいる姿を今でも思い浮べると、目がしちに熱いものを感じてきます。さて次はやはりクライマックスのプレーです。ある人なんかはスタート前のあの緊張は久しぶりだつて言っていました。これが唯一の走る競技でした。距離は少なうしたので、ほとんど全員が走つたので、かなりエスカレートしておもしろかったのじゃないでしょうか。最後の教師と学生のソフトボールは、何点差かは忘れましたが先生方が勝つたこ

編集後記

日本列島は梅雨の季節を迎えておりますが、このところ、晴れ間の多い毎

日が続いています。学生たちも学びに、伝道活動に、作業に張切っています。つい先日は教区の教職との合同のスポーツ大会が持たれました。きれいになった校庭の池の中を気持ちよく泳いでいる鯉の姿にも親しさを覚えます。

今回からは学生が編集に加わってくれましたので誌面にも新鮮さを感じられるものとなりました。学生の夏期派遣のためにも御加勢下さい。(Y)

専門A(三年) 藤木 隆

発行・一九八八年七月一日
事務局 〒170 〇三九一八 四九二五
東京都豊島区駒込三二五一〇
中央聖書学校
編集者 石 原 嘉 宣
山 城 晴 夫

中央聖書学校学生募集

宣教のビジョンに燃える
若者よ、来れ！
入学資格 受洗後2年以上を経た忠実な教会員であること
出願手続 本校所定の入学願書に必要事項を記入の上、〆切日までに下記のもの添えて提出のこと
①最終学校の卒業証明書および成績証明書
②健康診断書
③入学検査料5,000円
本校 豊島区駒込3-15-20
TEL 03-918-4925
関東分校(夜間) 〃
関西分校(夜間) 西宮市鳴尾町1-10-7
TEL 0798-41-4428
入学案内は所属教会牧師にお申出下さい。



生ける学び

専門A(三年) 田中絹子

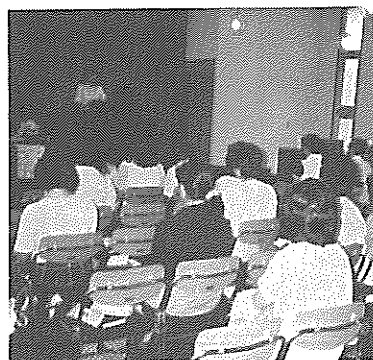
「神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられ」(テモテ12・4)

神学校での授業が、大変、重要であるということは入学してからすぐわかりました。それは、学問としての学びもさることながら、教えて下さる先生方のことです。先生方は、それぞれのところで、伝道・牧会をされています。私たちは、学びということを通して、先生たちの教会でのお話を多く耳にしました。書物の上だけ、机の上だけの学びが、経験を積まれた先生たちによって生きた学びとなつて、私たちに流れてきます。良い時のことばかりではありません。むしろ、あんな苦しい

主の山は訓練中

今回は、神学校という所がどういう所なのかよくご存知ない方のために、少しご紹介させて頂きたいと思っています。関東にお住まいの方々は、関東聖会や何かの集会で、私たちの学校や寮のある駒込にいらつしやる機会が多いので、学生がどういふ所に住み、どんなふうに通っているかわかりになるとおもいますが、地方にお住まいの方々には、全くご想像がつかないのではないかと思います。

中央聖書学校を、修道院以上のようなどころと思つていらつしやる方もあるのではないのでしょうか。私たちのために祈つて下さっている方々や、これから献身したいと思つていらつしやる方々のご参考になれば感謝です。



チャペル 主の臨在濃厚な中で

一日の時間の流れ

一日の生活がどのようなものか、ご紹介しましょう。

前5:30 起床時間前ですが、祈禱室で各人が自由に祈ります。強制ではなく、あくまでも自由参加です。

6:30 起床のベルと共に、男子寮・女子寮とも一斉に起き、身仕度を整えて、朝の清掃場所に向かいます。

6:35 各分担任に従つて、校舎、校内、寮内の清掃、朝食準備をします。朝食は、男子1名、女子2名で、準備されている材料をもとに、ごはんを炊いたり、みそ汁を作ったりします。チームワークが大切です。

7:00 ラジオ体操や、なわ飛びで身体のコンドイションを整えます。やはり、牧師、伝道師は体力がなければなりませんから……。

7:15 朝食。食堂で、全員そろつて頂きます。食後は当番制で後片付けをします。

7:40 身仕度を整えて、チャペルに向かいます。神様に礼拝をささげるのだ、という緊張を覚えます。

8:20 授業が始まる前に、神様を礼拝できるすばらしい時です。賛美の中に、御言葉の語りかけに、主の臨在を感じます。まさに、御国の心地がします。

9:15 午前中、55分授業で3コマの授業を受けます。授業の間に10分間の休憩があります。

12:20 昼食・昼休み。先生方と共に食堂で食事をします。授業の緊張感から解放され、楽しく、ホッとすると時です。食後は当番の学生が、後片付けをします。

1:10 午後は午前の科目の続きで、1コマの授業を受けます。

2:05 授業後教室を清掃。

2:15 各祈禱班が集まつて祈ったり、各部の活動を行なったり、訪問伝道、トラクト配布に出かけたりします。

4:55 夕食。1日の中で、恵まれたこと、失敗したこと等々、語り合いながら、おいしい食事を頂きます。

6:30 門限。夕食後に買物や散歩に出かけた人も、この時間までに

は帰ってきます。

6:30 自習時間で、予習・復習を一生懸命し、授業に備えます。図書室を利用したり、各自の部屋で机に向かっています。祈禱室で祈つて、チャペルや、伝道会の説教準備をする人もいます。

10:30 11時には消灯になるので、その間に必要のことを済ませて、床に就きます。(一日の労苦は一日で足りり。)

このような時間の流れに沿って、一日一日が積み重ねられてゆき、訓練されています。

(なんだ、案外時間がゆつたりしているんだな。)

と思われる方もおありかと思いますが、限られた時間内で、予習、復習、レポート作成、奉仕等をこなすというのは、なかなか大変なことだと思います。そこで、時間の使い方の工夫がなされ、優先順位を考えて行動すること、を学んで行きます。寮にはテレビというものがありませんので、今までテレビ中心に生活していた、というような人も、神学校でしっかりと、有効な時間の使い方を身につけることができます。

兄弟愛

基礎A(一年) 渋谷友光

私も、主のあわれみと恵みにより召しを受けながらも、劣等感で悩む者でした。しかし神様はそんな私に、御言葉を与え、その一歩を踏み出させて下さいました。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。私の力は弱いところに完全にあられる」(コリントⅡ12の9) 中央聖書学校に入学した後も、神様は多くの恵みを注ぎ続けて下さっています。

生まれて初めて経験する寮生活では

愛する兄弟姉妹と折り合い助け合い励まし合う日々を送らせていただいております。

私が入学して間もなく風邪にかかりました。その時など、私の苦しみを自分の苦しみの様に思い、私の為に手を置いて祈り看病して下さいました。私はこの様な兄弟達と共にすごせる生活を心から感謝しました。又その祈りは祈られる者も祈る者も同じ神様を信じる信仰なので、思いを越えた力強さをおぼえました。

又その様な兄弟姉妹に比べ、自分自身が「なんと愛のかけている者だ」と思われ、悔改めさせられました。「自分を愛する様に、あなたの隣り人を愛しなさい。」人を愛するということは、その人の命を思い生かすことであることを学びました。そして愛する者に仕えることは犠牲ではなく、それは「仕える喜びである」ことを学びました。

この様に授業以外でも、神様は私に必要なことを日々教えて下さることを感謝します。



運動会

最近、神学生が動くと思ふ雨が降るといふジンクスを知りつつ、去る6月13日、大胆にもこの梅雨時に運動会を企画しました。何と言っても緻密に計画をしない運動部のこと、準備は一週間前でしたから驚きです。いつもなら学生だけなのでなんとかがまか(っ)いや簡単ですませたのですが、今年は去年とは違い関東教区の先生方を招いての運動会、いろいろと気を使つて企画をしました。まず第一に先生方に



教師から見た 最近の学校生活

上原 和雄

「最近の学生は……」などと年輩者ぶるほどに私自身年をとっていないつもりであるが、二、三気づいたことを書いてみよう。

新制度（四年制）になってから、学生の平均年齢が高年化したこともあって、昔より当然大人であるが、その割には、学校当局が彼らを完全信頼して「朝から完全休日にします、今日は門限もありません」などという休養日をなかなか与えないので、気の毒な面もある。

にもかかわらず大変明るく、わりと自由に学生生活を楽しんでいる風に見えるのは、さすがに若さであり、さすがに献身者だと感心する。教師に気を使ってくれたり、昔の学生よりずっと礼儀正しいのではないかと思えるのも、今の時代では、神学校ならではの、の感があり、感心させられている。

大人になる、ということのついでに書き加えたいが、大人になるということは、社会生活への適応に生きること、

なのだから、「社会のきまり」を学習する演習としての「寮生活の規律」を尊ぶ責任性といったものが、少しあってもいいのではないか。また人間関係は横関係だけでなく、縦関係もあるのだから、上級生を立てるはじめがないと困るのではないか。昔は保安部という学生組織があつて、寮秩序の査察をやつた。それなりに律法的でなく恩情もあつた。しかし、そういうものがないと我儘になってしまうというのでは、まだ本当の大人ではないな、なんて、これは注文である。



緊張の授業風景

生徒から見た 学校生活

チャペルの恵み②
基礎B（二年）円岡綾子

神学校では、毎朝授業の前に、チャペルがもたれます。主を礼拝してから一日が始められるという幸いを覚え、感謝です。

諸先生方、又上級生の方々を通して語られる御言葉はとても力強く、毎回励ましと慰めを受けています。普段ほとんどお会いすることができない関東教区以外の先生方からもメッセージを聞く機会があり、多くの方々から主の御言葉をいただいていることを感謝しています。

そればかりでなく、賛美、祈りを通して、主の臨在をとても強く感じ、多くの恵みを得ています。同じ志を持つたものが、共に集い、共に賛美し、共に祈る——共に主の恵みにあずかっているという喜びを実感しています。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」

主の恵みに感謝しつつ、さらに主に仕えていきたいと思えます。

チャペルの恵み①
基礎B（二年）天野弘昌

毎朝、もたれるチャペルは、私達にとって本当に恵みに満ちあふれる時です。主の尊い聖名を崇め、力強く賛美を献げ、日々の霊の糧を頂き、あたかも日々が聖会のごとく、すばらしい霊の取扱いを受ける恵みであり、特権です。ある者は、主への感謝と喜びを全身で表現せずにはいられなくなり、一方、不安や悩みに沈み賛美できない者には、全てを覆い尽くす大きな主の愛と平安の中に入れられるのです。また時として、自我が粉々に打ち砕かれ、悔い改めの祈りに泣き崩れる時もあります。

これはまさに、濃厚な主の臨在の中で、私達を主の御旨に適う器々として、備えられ、整えられる為の聖別の時であるのです。

「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。」と、さらに主への献身を新たにされます。このようにして、神学校の一日が始まります。



休み時間。ちょっと休憩



さあ、おいしい食事だぞ昼食事

一週間の流れ

月曜日 学生の間では、作業日と呼ば

れています。授業はなく、チャペル後、全員で、校内清掃、寮内整備、修理作業を行います。

「自分たちの学校は、自分たちの手で美しく」

をモットーに、大工仕事、ペンキ塗り、ミシンかけ、草引きetc.

ありとあらゆることをしますが、すべて将来に役立つことばかりです。

火曜日 「一日の生活の流れ」の所で本曜日紹介した通りです。

金曜日 午後7時30分から9時まで学生による伝道会が行なわれますので、授業後2時30分から、清掃をしたり、トラクト配布に出かけたりして、準備をします。伝道会後、後片付けをして寮に戻ります。

土曜日 午前中で授業が終わり、午後からは、日曜日の礼拝や、日曜学校の奉仕の為の準備等に時間を使います。

日曜日 1人または、2、3人づつに分かれて、関東教区の教会で奉仕をさせて頂きます。半年ごとに派遣教会が変わります。

食事作りのヘルパー

ヘルパーというのは、助け手という意味ですが、だれを助け、何をするかというと、私達学生の為に、毎日おいしい食事を作つて下さる構姉妹のお手伝いをする当番の学生をヘルパーと呼んでいます。賄いの構姉妹は、毎日通つて来られるので、朝食は自分達で作る、夕食準備時に、午後四時から男女一名ずつ毎日交替で厨房に入つて、料理作りを手伝います。台所に立つたことがないという男子学生も、慣れない手つきで包丁を握っていますが、卒業する頃には、だいぶ慣れて、たとえ開拓に一人で遣わされても大丈夫なようになっているのではないのでしょうか。

その他、毎食後に食器を洗ったり、後片付けをする学生も、ヘルパーと呼ばれるています。

神学校ってどういう所

神学校生活はどうですか。神学校とはどういう所ですか。と時々質問されます。神学校に入学する前と比べると、一日中神様のことだけを思い、御言葉の恵みに浸り、神様とより近く歩めるという所であるし、天国のような所と言うことが出来ます。夏期派遣や冬期派遣で、母教会に遣わされたり、また自分の家に幾日か滞在することがあつても、

（ああ、早く学校に戻りたいな。）と思った。というのが、ほとんどの学生の感想であり、長期の派遣や、日曜日の派遣後、寮への道をたどる時、とてもホッとした気持ちになつて、（自分の居るべき所は、やはりここなのだ。）という実感が湧いてきます。

しかし、それぞれの学生に与えられる主の訓練を思う時、神学校に在るということは、

「流れの早い川の中に置かれた石のようなものだ。」

と思います。神学校に入学する以前にも、クリスチャンとして成長する為に、神様からの御取り扱ひを受けて来ましたが、神学校では、そのスピードが、かなり早い気がします。毎日の生活の中で、自我がどんどん削られ、洗われて、角が砕かれてゆくような気がします。砕かれる時、痛みを覚えますし、神様の前で涙を流すこともしばしばあります。そのような中で、神様は、私たちを神の尊い御用に間に合う者として、整えて下さいます。

私達の学校の庭には、多くの実がなる木があります。ビワ、栗、柿、木イチゴ、梅、私達全員のお腹を満たしてくれるというわけにはいきませんが、私達を楽ませてくれます。四月の入学時には、満開の花を咲かせてくれる桜、夏には涼しさを加えてくれる池や、かわいらしい鯉たち、このような素晴らしい環境の中で、同じ志を持つ兄弟姉妹と学べる恵みを心から感謝します。

専門B（四年）木村智子記

— 関 西 —

二年目を迎えた

C・B・C 関西分校

津村 昭 二 郎

主イエスの大宣教命令「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」の達成、教団一九九〇年ビジョン成就のために全国の諸教会からの熱心な祈りと大きな期待をもって昨年の四月開校された関西分校も二年目を迎えることになりました。

今年も四月八日関西分校（鳴尾）で開講式を行いました。昨年入学された本校生二名、聴講生二十四名、計二十六名を迎えることが出来て本当に感謝でした。

授業は毎週火曜日と金曜日です。授業日には午後六時より三十分チャペルを行っています。今年からは主に学生が担当しています。少しは重荷のようですが皆頑張っています。教えるということはまた教えられるということとで学生達には良い勉強となり、各教会の先生方の苦勞を理解出来たようで先生のために祈らねばならないと聖霊の迫りを受けています。ただ学生にとっては勤務の都合上全員参加出来ないのが残念です。

前期の授業は、火曜日第一時限「教会史」（久保田寛師）第二時限「旧約研究法」津村昭二郎師）金曜日第一時限「時代史（聖書地理）」（広瀬利男師）第二時限「比較宗教学」（杉本俊輔師）です。各授業共、先生方の豊富な知識と深い経験によって熱心に行われ学生

分校特集

スタートした関東分校

菊山 和 夫

祈りと準備をもってこの四月に開校した中央聖書学校関東分校は、その後も多くの方々の祈りに支えられて祝福のうちに授業日程を消化している。

入学式の時には、週二日とはいえ日中の勤めと夜間の学びという今までにない新しい生活に対する緊張感が分校生（二名）にも聴講生（十四名）にも見受けられたが、クラス開始と同時に全体がすぐ一つにうちとけて、緊張の中にもなごやかな授業が続けられている。それでも授業態度は、日中の疲れを感じさせないほど皆真剣そのもの、出席率も常に九〇%以上で、教理、個人伝道、旧約概論、新約概論の前期の授業を細大もろさず吸収しようとする意気込みが伝わってくる。宿題も立派にこなし、質疑応答も活発である。学びを実際の伝道に生かそうという意欲が見られるのである。ただ、六時からの授業開始は勤めの時間の関係もあってかなりきついようであるが、各自信仰によって問題を克服しているようである。生徒の中には、横浜、埼玉など、一時間半かけて通学してきている兄弟が五人おり、授業が終わって家に着くと十一時を越えてしまいが、それでも学びを楽しみにして休まず出席している。ここで何人かの生徒にこ

れまでの感想を聞いてみた。

T姉「職場では上司に理解してもらって、六時に間に合うように火、金だけは残業なしにしています。学ぶことはとてもすばらしい。」「E姉「残業をしないと、たとえばボーナス査定に響くので、六時に来ることは、いろいろ犠牲が伴いますが、犠牲をはらってこそしっかりと学ぶことができるし、思われるのだと最近はずきりわかるようになりました。」

S兄「帰りが十一時を過ぎます。授業は教えて下さる先生によって全く違うのでとてもためになり退屈しません。どの科目も今の私にとって必要です。ますます献身への道がはつきりしてきました。」

N兄「警部補のつとめを終えてこちらに来るまで一時間半以上かかるため、教室に入る直前までいつもふらふらしていますが、いったん授業を受けると身も心も軽くなって、また一時間半かかって帰るときは肉体的には疲れていても霊的には全く満たされます。職場は八時半に始まりますが、自分は七時半には出勤して諸準備をするため授業のある日は大変ですが、どの科目もとても恵まれて、力になります。学びを実際の奉仕に生かしていきたいと思っています。」

O姉「本校と同じ教室で学ぶことができてさいわいです。将来どういう形で献身するか

達も興味深く真剣に聞いています。時には先生のユーモアが飛びだし心からの笑いと喜びが交差する楽しい雰囲気です。

特に時代史（聖書地理）の授業には大きな地図を用い、時にはビデオを利用して視覚に訴え、まるで聖地旅行をしているような学びが出来ると学生達は喜んでいました。授業の休憩時間にはお茶が出され、時にはお菓子の差し入れがあり、学生同志親睦を深めるチャンスとなり、また楽しみの一つともなっています。

学生達は夫々、教会の中心メンバーが多く、学んだことを實際生活に、また教会で奉仕に応用し先生方に大変喜ばれています。

五月上旬に第三十六回関西聖会がサンシビック尼崎の大ホールで行われました。二日目の午後学生一同のコーラスがありました。実は開講してすぐの聖会でしたので練習する時間も少ない事情でしたが、学生達は恵みと喜びに満たされ主をたたえました。出席者一同感激を新たにされました。この聖会で献身者が募られ多くの方々が決意され関西分校の将来に大きな希望が与えられました。

このような恵まれた楽しい学びと、奉仕が続けられるのは、全国諸教会の先生や愛児姉の熱心な祈りが日夜捧げられているからです。講師、学生一同心から感謝すると共に、引き続き多くの学生、聴講生が導かれてくることを念願しています。もっと実のある奉仕を願う愛児姉達よふるって関西分校にきて下さい。

分校で学びながら折っていきなさいと思つてます。」



関東分校聴講生募集

関東分校では教会における信徒リーダーを目指す人々を募集しています。夜間の学びであるため、働きながら基礎的な学びをすることができ好評です。

科目 教理、旧約概論、新約概論
個人伝道法
授業日 毎週火曜日、金曜日
午後6時～9時20分
受講資格 洗礼を受けている忠実な会員で所属教会の牧師の推薦が必要。
受講手続 分校所定の聴講申請書に必要事項を記入の上、聴講料として1学期1単位4,000円を添えて提出のこと。

関西分校聴講生募集

関西分校は関東分校に先立って、昨年4月に開講され、本年は2年目を迎える。いよいよ充実した学びを提供しています。クラスにおける学びは、直ちに教会において実際に用いられ、24名の方々が聴講しています。

科目 教理、旧約概論、新約概論
個人伝道法、キリスト教教育。
旧約研究法、教会史、聖書地理、比較宗教学
授業日 毎週火曜日、金曜日
午後6時～9時35分
聴講申請書は鳴尾純福音教会内、関西分校事務局へお申込み下さい。

さあ行こう関西分校へ、主は待っておられる!!

